

CASBEE あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICH

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) ホテルルートイン東郷	階数	地下0階地上7階
建設地	愛知県愛知郡東郷町大字春木字猫池17番 他17筆	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域・準住居地域、防火地域指定なし	平均居住人員	351 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年12月 予定	評価の実施日	2024年8月31日
敷地面積	3,724 m ²	作成者	坂井 進一
建築面積	1,049 m ²	確認日	2024年9月12日
延床面積	5,275 m ²	確認者	永山 泰樹



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p>BEE = 1.1</p> <p>★ ★ ★ ★ ★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★ ★ ★ ★ ★</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値: 100%</p> <p>②建築物の取組み: 69%</p> <p>③上記+②以外の: 69%</p> <p>④上記+: 69%</p> <p>0 46 92 138 184 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Qのスコア = 2.5</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 2.8</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 2.7</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 2.4</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LRのスコア = 3.5</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 4.2</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.0</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.2</p>

3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>4.2</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p>20.9 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.0</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)ホテルルートイン東郷

欄に数値またはコメントを記入
 ■使用評価マニュアル: ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
		<p>Q 建築物の環境品質</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>1 音環境</p> <p>1.1 室内騒音レベル</p> <p>1.2 遮音</p> <p>1 開口部遮音性能</p> <p>2 界壁遮音性能</p> <p>3 界床遮音性能(軽量衝撃源)</p> <p>4 界床遮音性能(重量衝撃源)</p> <p>1.3 吸音</p> <p>2 温熱環境</p> <p>2.1 室温制御</p> <p>1 室温</p> <p>2 外皮性能</p> <p>3 ゾーン別制御性</p> <p>2.2 湿度制御</p> <p>2.3 空調方式</p> <p>3 光・視環境</p> <p>3.1 昼光利用</p> <p>1 昼光率</p> <p>2 方位別開口</p> <p>3 昼光利用設備</p> <p>3.2 グレア対策</p> <p>1 昼光制御</p> <p>3.3 照度</p> <p>3.4 照明制御</p> <p>4 空気質環境</p> <p>4.1 発生源対策</p> <p>1 化学汚染物質</p> <p>4.2 換気</p> <p>1 換気量</p> <p>2 自然換気性能</p> <p>3 取り入れ外気への配慮</p> <p>4.3 運用管理</p> <p>1 CO₂の監視</p> <p>2 喫煙の制御</p> <p>Q2 サービス性能</p> <p>1 機能性</p> <p>1.1 機能性・使いやすさ</p> <p>1 広さ・収納性</p> <p>2 高度情報通信設備対応</p> <p>3 バリアフリー計画</p> <p>1.2 心理性・快適性</p> <p>1 広さ感・景観 (天井高)</p> <p>2 リフレッシュスペース</p> <p>3 内装計画</p> <p>1.3 維持管理</p> <p>1 維持管理に配慮した設計</p> <p>2 維持管理用機能の確保</p> <p>2 耐用性・信頼性</p> <p>2.1 耐震・免震・制震・制振</p> <p>1 耐震性(建物のこわれにくさ)</p> <p>2 免震・制震・制振性能</p> <p>2.2 部品・部材の耐用年数</p> <p>1 躯体材料の耐用年数</p> <p>2 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>4 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>5 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>6 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>2.4 信頼性</p> <p>1 空調・換気設備</p> <p>2 給排水・衛生設備</p> <p>3 電気設備</p> <p>4 機械・配管支持方法</p> <p>5 通信・情報設備</p>									
					0.1	3.0	0.15	3.0	3.0	1.00	2.6
					3.0	3.0	0.40		3.0	0.40	
					0.4	3.0	0.40		3.0	0.40	
						3.0	1.00		3.0	0.30	
									3.0	0.30	
									3.0	0.20	
									3.0	0.20	
					0.3	2.0	0.35	2.0	2.0	1.00	2.0
					0.5	3.0	0.50	3.0	3.0	0.50	
					3.0	3.0	0.38		3.0	0.57	
					3.0	3.0	0.25		3.0	0.43	
					3.0	3.0	0.38				
					3.0	1.0	0.20		1.0	0.20	
					3.0	1.0	0.30		1.0	0.30	
					0.2	3.0	0.25	3.2	3.2	1.00	3.1
					0.3	3.0	0.30	3.7	3.7	0.30	
			1.0% ≤ [昼光率] < 1.25%		3.0	3.0	0.60		4.3	0.60	
					3.0	3.0	0.40		3.0	0.40	
					0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.30	
					5.0	3.0	1.00		3.0	1.00	
					3.0	3.0	0.15		3.0	0.15	
					3.0	3.0	0.25		3.0	0.25	
					0.2	2.7	0.25	2.7	2.7	1.00	2.7
					0.5	3.0	0.50	3.0	3.0	0.63	
					3.0	3.0	1.00		3.0	1.00	
					0.3	2.0	0.30	2.3	2.3	0.38	
					3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
					3.0				3.0	0.33	
					3.0	1.0	0.50		1.0	0.33	
					0.2	3.0	0.20				
					3.0						
					3.0	3.0	1.00				
					0.4	2.4	0.40	2.8	2.8	1.00	2.7
					0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.60	
					3.0				1.0	0.50	
					3.0				5.0	0.50	
			独自		3.0	3.0	1.00				
					0.3	1.0	0.30	2.5	2.5	0.40	
					3.0				4.0	0.50	
					3.0						
					3.0	1.0	1.00		1.0	0.50	
					0.3	3.0	0.30				
					3.0	3.0	0.50				
						3.0	0.50				
					0.3	2.8	0.31				2.8
					0.4	3.0	0.48				
					3.0	3.0	0.80				
					3.0	3.0	0.20				
					0.3	2.7	0.33				
						3.0	0.23				
						2.0	0.23				
						3.0	0.09				
						3.0	0.08				
						3.0	0.15				
						3.0	0.23				
					0.1	2.6	0.19				
					3.0	3.0	0.20				
					3.0	2.0	0.20				
					3.0	3.0	0.20				
					3.0	3.0	0.20				
					3.0	2.0	0.20				

3 対応性・更新性				0.2	3.4	0.29	2.4	2.4	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり				-	-	-	1.8	1.8	0.50	
1 階高のゆとり				-	-	-		1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				3.0	-	-		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	-	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				1.0	3.4	1.00			-	
1 空調配管の更新性		②		3.0	3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性			電気配線がケーブルラック上に設置されますので、仕上材を痛めることなく、更新・メンテナンスができます。	3.0	5.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性			通信配線がケーブルラック上に設置されますので、仕上材を痛めることなく、更新・メンテナンスができます。	3.0	5.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30		-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③			2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30		-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										3.5
LR1 エネルギー						0.40		-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPIm= 0.75。	3.0	5.0	0.30		-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEIm= 0.63、LED照明設備を	3.0	5.0	0.30		-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20		-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価								-	-	
4.1 モニタリング								-	-	
4.2 運用管理体制								-	-	
LR2 資源・マテリアル						0.30		-	-	3.0
1 水資源保護				0.1	2.2	0.15		-	-	2.2
1.1 節水				3.0	1.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.1	0.63		-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-		3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	断熱材	3.0	3.0	0.20		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体+鉄鉄+仕上げ材により、躯体と仕上げ材が容易に分別可能。	3.0	4.0	0.24		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22		-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.5	0.68		-	-	
1 消火剤					-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。		4.0	0.50		-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境						0.30		-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率が69%。		4.2	0.33		-	-	4.2
2 地域環境への配慮				0.3	2.8	0.33		-	-	2.8
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用しません。		5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.5	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制		独自			3.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	2.7	0.33		-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音		独自			3.0	1.00		-	-	
2 振動		独自			-	-		-	-	
3 悪臭					-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制					-	-		-	-	
3 日照障害の抑制					3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	1.6	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					1.0	0.70		-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート
 (仮称)ホテルルートイン東郷

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			4.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.2	0.10
② 資源の有効活用			3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19
③ 敷地内の緑化			2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09
			外構緑化:20.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			1.0
		(評価ポイント)	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称) ホテルルートイン東郷

計画上の配慮事項	
総合	ライフサイクルCO2排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。
Q1 室内環境	1.0% ≤ [昼光率] < 1.25%。
Q2 サービス性能	客室に電話、放送に対応した通信回線が引き込まれている。さらに、客室にはGbitクラスのブロードバンドを備えたインターネットサービスも提供されている。 天井高2.5m以上。
Q3 室外環境(敷地内)	特になし。
LR1 エネルギー	BPI _m = 0.75。 BEI _m = 0.63、LED照明設備を導入している。
LR2 資源・マテリアル	躯体+軽鉄+仕上げ材により、躯体と仕上げ材が容易に分別可能。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率が69%。 燃焼機器を使用しません。
その他	特になし。